

【以下余白】

2005 年度

## 刑 事 法 問 題 用 紙

### 注 意

1. 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答用紙は黒インクのボールペンまたは万年筆で記入してください。黒インクのボールペンまたは万年筆を忘れた者は監督に申し出てください。(黒鉛筆・シャープペンシルなどを使用してはいけません。)
3. この問題冊子は4ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。
4. 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、あなたの受験番号の番号であるかどうかを確認してください。
5. 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
6. 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
7. この問題冊子は持ち帰ってください。

I. 次の文を読み、甲の罪責を論ぜよ（特別法違反は除く）。解答は、紺色の解答用紙（その1）にしるせ。

甲は、対立する暴力団のAが覚せい剤売買で利益をあげていることを知り、Aから覚せい剤を入手した上でAを殺す計画を立てた。犯行当日、甲は、ホテルの別室に覚せい剤の買い手がいるように装って、Aをホテルの一室に呼び出した。そして「買い手が先に覚せい剤を渡して欲しいと言っている」とAに告げると、Aは「それならこれをおまえに預けるわ」と言って覚せい剤を甲に渡した。甲はそれが真正なものであることを確認するや否や、Aの背後に回り左手をAの首に巻きつけて、鋭利な包丁でAの右上腕部を一回刺し、その後、胸などを多数回刺して、Aを死亡させた。甲は包丁を手にしてAの右上腕部を一回刺したことまでは記憶していたが、その後の行為については全く記憶がなかった。精神鑑定では、甲はAの胸などを多数回刺した時点において、てんかんの発作による心神喪失状態にあったとされた。

II. 次の問(1)～(4)について、それぞれ括弧内の字数で答えよ。解答は、茶色の解答用紙（その2）にしるせ。なお、以下にいう「現行法」には、「刑事訴訟法等の一部を改正する法律」（平成16年法律第62号）による改正は含まれない。

- (1) 覚せい剤自己使用罪の嫌疑を受けている被疑者が尿の任意提出を拒否した場合、強制的に尿を採取することができるか。判例の見解を述べよ。(100字以内)
- (2) 現行法上、無令状差押えが認められる要件を列挙せよ。(50字以内)
- (3) 現行法上、検察官が手持ち証拠について開示義務を負うのはどのような場合か。判例の見解もふまえながら、列挙せよ。(50字以内)
- (4) 自白に補強証拠が必要とされる理由は何か。また、補強証拠が必要とされる事実はその範囲か。簡潔に説明せよ。(100字以内)